別紙添付書類②　★11 月 27 日（水）

明日の平和を手渡すために、子どもの本ができること

講師　宇野和美氏　ほそえさちよ氏

《プログラム内容》

10：00～12：00

《1》今、なぜ戦争と平和のブックガイドか

・『明日の平和をさがす本　戦争と平和を考える絵本からＹＡまで 300』ができるまで

《2》戦争や平和の本を子どもに渡すときに、気をつけたいこと

・グレードや視点をしっかり見極める

・感動にだまされない

・感心のあるところからはじめる

《3》さまざまな本を手にとろう

・戦争ってなんだろう

・体験をうけとめる

・写真や資料は語る

・本を読んで壁を超えろ！

・平和を願って/分断されないために

・新しい本から

《4》子どもの本だからできること。

◎紹介して頂いた絵本の一部

	題名	作者	出版社
1	せかいでいちばんつよい国	デヴィット・マッキー	光村教育図書
2	そらいろ男爵	ジル・ボム	主婦の友社
3	そして、トンキーもしんだ	たなべまもる	国土社
4	おとうさんのちず	ユル・シュルヴィッツ	あすなろ書房
5	ぼくはチューズデー	ルイス・カルロス・モンタルバン	ほるぷ出版
6	地雷のない世界へ	大塚敦子	講談社
7	わたしの『やめて』	自由と平和んための京大有志の会	朝日新聞出版
8	彼の手は語りつぐ	パトリシア・ポラッコ	あすなろ書房
9	まんが少年、空を飛ぶ	山崎祐則	偕成社
10	バスラの図書館員	ジャネット・ウィンター	晶文社

その他

★7 月の加藤氏・甲斐氏に引き続き、今回も多くの受講生で賑わう講座となった。「日頃の活動や日常生活の中で、子どもたちに「平和の本」をどんな基準で選書し、それをどのように手渡していけばいいのかわからない。」そういったボランティアや母親達の声に応える形で開催された、初めての試みの「戦争と平和の本」の講座である。

①長く読み継がれた本でさえ、今の視点で検証し、事実を見極めることが必要である。②子どもが興味のある本を、その年齢にあったグレードで手渡す。③平和に関して多様な視点で書かれた多様な本を子どもたちに差し出すことで、子どもの心に窓をあけてあげることが大人の役割である。…等、活動のヒントになる言葉をたくさん頂けた。「子どもたちの栄養になる本を」と、丁寧に選書されてきた先生方の話を聞くにつれ、私たち自身があらためて「戦争と平和」に関して学び直す必要があると痛感させられた。今まで「平和の本」を子どもたちに手渡すことに躊躇していた大人たちの背中をそっと押してくれるような、実り多き講座であった。